

自己評価報告書

平成23年 5月10日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520681

研究課題名（和文） 東アジアの都市における伝統的生活空間構造の形成と伝播についての
歴史地理学的研究研究課題名（英文） Historical geographical study for formation and diffusion of the
traditional spatial structure in East Asian cities

研究代表者

秋山 元秀 (AKIYAMA MOTOHIDE)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：00027559

研究代表者の研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：東アジア、都市、生活空間、空間構造、文化伝播

1. 研究計画の概要

東アジア(東南アジアを含む)には、多様な生活様式があり、それにともなった生活空間が存在する。とくに都市は、その地域の文明文化の精華のあらわれであり、都市空間の形態や構造も、それぞれの文明文化の一つの表現である。本研究は、東アジアに存在する多様な都市の生活空間の構造が、どのようにして成立したのか、その源流はどこにあるのか、それらは東アジアの諸文化・諸文明とどのように関連しているのか、などについて研究を行おうとするものである。

2. 研究の進捗状況

現在、当初の研究計画の多くが実施済みであり、予想したように中国の都市空間構造が東アジア、東南アジアの地域に広く影響を与えていることが確認された。しかし都城のように大規模な都市についてはその基本構造と部分と、都市内部の居住空間のあり方とは必ずしも同一レベルでは論じられないことがわかってきた。また漢字文化や儒教文化などの面では強い影響を受けている日本やベトナムでは、居住空間に関してはかなり異なった伝統が生まれている。今後はこのような比較検討を行ったうえで、それぞれの地域の空間構造の個性を明らかにする必要がある。

3. 現在までの達成度

当初に掲げた目標の調査や資料収集は予定通りに進んでおり、予想していた結論に近づいているといえるので、おおむね順調に推移している。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、これまでの各地を対象にした研究で得られた成果を比較検討したり、内外の既往の研究業績の見直しによる検討をしたりする中で結果をだしたい。また小規模はシンポジウムを開催して、他の研究者との意見交換も行いたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

①秋山元秀「成都の都市構造の成立と展開」『変わり行く四川』(石原潤編)ナカニシヤ出版2010、査読無 pp.10-36

②秋山元秀「中国の伝統的地理思想と中国の空間構造」『アジアの時代の地理学 伝統と変革』(千田稔編)古今書院2008、査読無 pp.57-66

〔図書〕(計1件)

③秋山元秀共編著『都市と農地景観』(アジアの歴史地理2)朝倉書店2008 376pp.